

# 委託事業実施内容報告書

## 平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語教室の設置運営】

受託団体名 群馬県日本語教育支援政策研究会

#### 1 事業の趣旨・目的

生活者としての外国人の生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力育成を目的とし、本研究会が開発した「タスク積み上げ型」シラバス、指導法、教材を用いた日本語教室「日本語でできた！」を実施する。この日本語教室で採用する「タスク積み上げ型」の日本語教育は、主に留学生対象の「文型積み上げ型」とは異なり、文型ではなくタスクを積み上げるものである。易しいタスクを積み上げてより複雑な難しいタスクが行えるようにし、生活者としての外国人が生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成を目標とする。

#### 2 運営委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月28日 18:00 ～19:30	群馬県立女子大学 352 研究室 (群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1)	[運営委員] 伊藤健人 ヤン・ジョンヨン 遠藤藍子 木暮律子 太田祥一  [事務補助] 森沙耶佳	1) 委員紹介 2) 事業概要の説明 3) 開催場所・日時・担当講師の検討 4) 募集方法の検討	事業の趣旨、目的、内容、今後のスケジュールについて共有した後、本事業のコンセプトやシラバス、指導方法を確認し検討した。また、事業実施に向けて日本語教室の開催場所、開催日時、担当講師、対象とする学習者、配布チラシ等について検討した。
7月2日 18:00 ～19:30	群馬県立女子大学 352 研究室 (群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1)	[運営委員] 伊藤健人 ヤン・ジョンヨン 遠藤藍子 木暮律子 太田祥一	1) 開催場所・配布チラシ・申し込み状況の報告 2) 日本語教室初回レベルチェック項目の検討	開催場所の一部変更(予約が取れなかったため)、配布チラシ、現在までの申し込み状況の報告を行った。そして初回に行うインタビューの内容や方法について検討した。

		[事務補助] 森沙耶佳		
9月28日 13:00 ～15:00	(財)日本国際 教育支援協 会 第一会議室 (東京都目黒 区駒場 4-5-29)	[運営委員] 伊藤健人 ヤン・ジョンヨン 遠藤藍子 木暮律子	1)第Ⅰ期日本語教室 の報告 2)第Ⅱ期日本語教室 に向けた問題・課題 の共有 3)短期集中型日本語 教室の検討	9月22日に終了した日本 語教室の報告を行い、成 果と今後の課題について 協議した。また、今後実施 予定の短期集中型日本語 教室のスケジュール、内容 等の検討を行った。
2月23日 13:00 ～14:30	群馬県立女 子大学 352 研究室 (群馬県佐波 郡玉村町上 之手 1395-1)	[運営委員] 伊藤健人 ヤン・ジョンヨン 木暮律子  [事務補助] 森沙耶佳	1)短期集中型日本語 教室中止の報告 2)第Ⅱ期日本語教室 の報告 3)第Ⅱ期日本語教室 での問題と課題の共 有 4)本年度のまとめ	短期集中型日本語教室中 止(スケジュール調整が困 難であったため)の報告を 行った。また、第Ⅱ期日本 語教室の報告を行い、成 果と今後の課題を議論し た。そして来年度事業に向 け、本年度の成果と課題を 議論した。

【写真】



**3 日本語教室の開催について**

①日本語教室の名称: 「日本語でできた！」

②開催場所: 第Ⅰ期:高崎市労使会館 第4会議室 (群馬県高崎市 80-1)  
第Ⅱ期:群馬県立女子大学 新館第1会議室  
(群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1)

③学習目標: 「生活者としての外国人」が生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーシ

ヨン能力の育成を目標とする。

④使用した教材・リソース： 自作教材（第3回目の教材を参考教材として）添付する）

<日本語でできた！③> 高崎日本語教室

3回目  
どんな財布が説明できた！

◆これは財でしょう◆

ヒント1 これは、どこかの家にもあります。

ヒント2 いろいろな色があります。

ヒント3 足が痛いときに、とても便利です。

ヒント4 勉強をするときや、食事をするときにも使います。

ヒント5 財布があるものもありますが、ないものもあります。

ヒント6 足が1つのものや2つ、4つのものもあります。

これは何でしょう？・・・ 答え：\_\_\_\_\_

◆ゲーム◆

		ヒント	答え
①	さん		
②	さん		
③	さん		

1

<日本語でできた！③> 高崎日本語教室

◆◆◆ タスク 1 ◆◆◆  
【荷があったか説明する】

近所で夏祭りがあったので、遊びに行きました。

祭りの賑りを散えてくれる人たちに、賑りを散えてもらいました。

帰って帰っていたら、おなかがすいてきました。

ところが、たこ焼きを買おうとしたら、ズボンのポケットの中に財布がありませんでした。

確か、家を出るときにはちゃんとポケットに入れたはずですが、

どうやら、夢中で帰っている間に、どこかに落としたようです。

どうすればいいか、誰かに聞いてみたいと思います。



財布、落とした！

☆他にも（こんなときどうする？）

→お店に傘を置いてきた。

→レストランに家の鍵を置いてきた。

→遊園地で子供が迷子になった。

→猫がいなくなった。

2

<日本語でできた！③> 高崎日本語教室

◆荷があったか説明する

① ～（し）ちゃったんです（けどんが）。

例1) あつう、財布をなくしちゃったんです。

例2) あつう、傘を置いて来たちゃったんですけど…。

例3) 鍵を置いて来たちゃったんですけど…。

例4) 字帳と はぐれたちゃったんですが…。

② ～て、～んです。

例1) 黄色くて、長財布なんです。

例2) 黒くて、重い鞆立です。まだ新しいんです。

例3) 黒くて、キーホルダーが付いている鞆なんです。

例4) 青がさくて、新しいTシャツを着ているんです。

③ ～たら～。

例1) 気がついたら、財布がなくなっていたんです。

例2) 家に帰ろうとしたら、傘を鞆に置きっぱなしで出たみたいなんです。

例3) 家に帰ったら、鞆がなかったんです。

例4) 気がついたら、そばからなくなっていたんです。

④ ～間に、～みたい【よう】で…。

例1) 帰っている間に、落としちゃったみたいで…。

例2) 寝たと醒している間に、忘れちゃったみたいで…。

例3) お浴槽にしている間に、忘れちゃったみたいで…。

例4) 遊んでいる間に、迷子になったように…。

⑤ （確か）～はずですが。

例1) 確か、ズボンのポケットに入れたはずですが。

例2) 確か、ソファのところに置いていたはずですが。

例3) さっき落とせばいいから、まだその辺にあるはずですが。

例4) ジェットコースターのところまでは帰ったので、その辺にいるはずですが。

3

<日本語でできた！③> 高崎日本語教室

自分の説明①

近所で夏祭りがあったので、遊びに行きました。

祭りの賑りを散えてくれる人たちに、賑りを散えてもらいました。

帰って帰っていたら、おなかがすいてきました。

ところが、たこ焼きを買おうとしたら、ズボンのポケットの中に財布がありません。

確か、家を出るときにはちゃんとポケットに入れたはずですが、

どうやら、夢中で帰っている間に、どこかに落としたようです。

どうすればいいか、誰かに聞いてみたいと思います。

4

<p style="text-align: center;">◆◆◆ タスク 2 ◆◆◆</p> <p style="text-align: center;">【理由を説明する】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今日は会社で会議があるので、いつもより早く帰社しなければなりません。</p> <p>ところが、なぜか道が渋滞しています。</p> <p>どうやら、前の方で交通事故が起きたようです。</p> <p>やっと渋滞から抜けだし、会社に着きました。</p> <p>普段どおりなら早く着くはずが、事故のせいで時間も遅れてしまいました。</p> <p>上司や同僚達に遅れた理由を説明したいと思います。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>☆他にも（こんなときどうする？）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→復讐をして、会社に遅れた。</li> <li>→宿題を持ってくるのを忘れた。</li> <li>→お店で買い物をしたが、財布を家に忘れてきた。</li> </ul> <p style="text-align: center;">5</p>	<p style="text-align: center;">◆理由を説明する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ～しなくて、本当に申し訳ありません（すみません）。 例1) 遅くなってしまって、本当に申し訳ありません。 例2) 忘れてきてしまって、本当にすみません。</li> <li>② ～みたくて。 例1) 17時前で交通事故があったみたいです。 例2) 家に財布を置いてきたみたいです。</li> <li>③ ～つもり（だったん）ですが、～ 例1) 早く出てきたつもりだったんですが。 例2) 持ってきたつもりですが、忘れたみたいです。</li> <li>④ 【動詞】のを忘れました（忘れてしまいました）。 例1) 連絡するのを忘れてしまいました。 例2) 持ってくるのを忘れました。</li> </ol> <p style="text-align: center;">各日の表現①</p> <p>今日は会社で会議があるので、いつもより早く帰社しなければなりません。</p> <p>ところが、なぜか道が渋滞しています。</p> <p>どうやら、前の方で交通事故が起きたようです。</p> <p>やっと渋滞から抜けだし、会社に着きました。</p> <p>普段どおりなら早く着くはずが、事故のせいで時間も遅れてしまいました。</p> <p>上司や同僚達に遅れた理由を説明したいと思います。</p> <p style="text-align: center;">6</p>
---	--

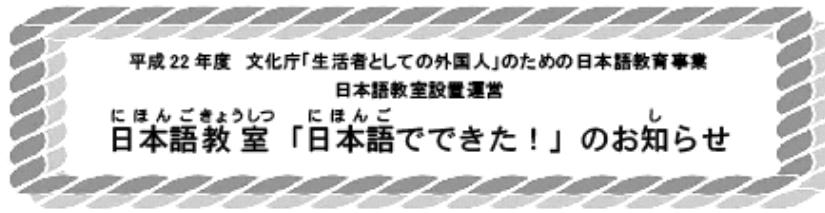
## ⑤受講者の募集方法

### 【方法と媒体】

- ・(財)群馬県観光国際協会ホームページ(国際交流支援サイト)への掲載
- ・各市町村の外国人登録窓口等への呼びかけ(チラシの配布等)
- ・本研究会の研修に参加したことのある方々(ボランティアや外国人)への呼びかけ(チラシを添付した電子メールや FAX)

### 【応募書類と応募方法】

- ・以下のチラシの申込書に必要事項を記入し FAX および電子メールで受け付けた。



日本語がうまく話せなくて困っていませんか？



- A どうして遅れましたか？  
B 道が混んでいたで遅れました。
- A 今度の日曜日、どこへ行きますか？  
B 家族と東京へ買い物に行こうと思います。
- A すみません、高崎駅はどこですか？  
B あの角を右に曲がったところです。
- A 頭が痛いときは、この薬を飲んでください。  
B いつ飲めばいいですか？  
A 食後に飲んでください。

※漢字は読めなくてもだいじょうぶです

- 主催：群馬県日本語教育支援政策研究会
- 共催：高崎市国際交流協会

■来てほしい人：1回日から12回までぜんぶ来られる人  
簡単な日本語がわかる人

たとえば、上の1～4の日本語がわかる人に  
来てほしいと思います。

■曜日と時間

曜日：毎週水曜日 7月7日(水)～9月22日(水) ぜんぶで12回  
時間：18時30分～20時30分

[7月]	7日	14日	21日	28日
[8月]	4日	11日	18日	25日
[9月]	1日	8日	15日	22日



- 場所：高崎市労働会館 (高崎市東町80-1/高崎駅から歩いて7分)
- 参加のために必要なお金：1人500円(12回ぜんぶで)

■申し込み：E-mail か FAX で7月5日までに申し込んでください

①E-mail：【名前・住所・連絡先・国籍・年齢・性別・職業・日本語学習歴】を書いて  
gunma.japanese@gmail.com に送ってください。

②FAX：別の紙に書いて027-223-1692に送ってください。

■わからないことがあったら、下の電話番号に電話してください

(TEL)027-226-3396に電話して、「森さんをおねがいします」と言ってください。

群馬県生活文化部国際課 多文化共生推進係 森

平成22年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 日本語教室設置運営

群馬県日本語教育支援政策研究会 主催

日本語教室 「日本語でできた！」のお知らせ

【外国人のみなさんへ】

いままで「日本語ではちょっと…」とか「もっとうまく説明したいのに…」と思ったことはありませんか？

群馬県立女子大学・高崎経済大学の日本語教師が“生活に必要な日本語”を教えます。

【この日本語教室の特徴】

◆いろいろな人と日本語でコミュニケーションができるようになります。

・会社や近所の人と日本語で話ができるように、会話の練習をたくさんします。

・漢字や文法を覚えるだけではありません。

◆生活の中で、日本語でできなくて困っていることが言えるようになります。

・テキストには、みなさんが日本語ではうまく言えなくて困っていることがたくさん書いてあります。

(例:「早退したい」「欠席した理由を言いたい」「映画のストーリーを説明したい」「病院に行きたい」など)

・いままで「日本語ではちょっと…」と思っていたことが、日本語でうまく言えるようになります。

1. 来てほしい人 (この教室の日本語のレベル)

・1回目から12回までぜんぶ来られる人 (休まない人)

・下の(1)～(4)の会話がぜんぶわかる人 (日本語能力試験N4～N3 (3級) レベルの人)

(1) A 今度の日曜日どこかへ行きますか？

B 家族と東京へ買い物に行こうと思います。

(2) A 先週の旅行はどうでしたか？

B 道が混んでいてずっと運転していたので、疲れました。

(3) A すみません、郵便局はどこですか？

B あの角を右に曲がって100メートルぐらいのところですよ。

(4) A 昨日からお腹が痛いんですが、どの薬がいいですか？

B それならこの薬がいいですよ。1日3回、食後に飲んでください。



## 2. スケジュール

11月17日～2月16日の毎週水曜日

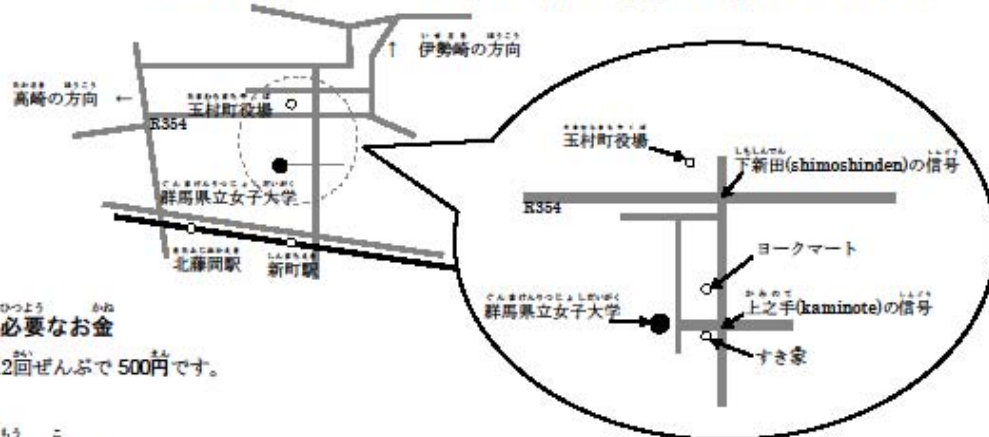
毎週 水曜日 18:30～20:30 ぜんぶで12回です					
① 11月17日	② 11月24日	③ 12月1日	④ 12月8日	⑤ 12月15日	⑥ 12月22日
⑦ 1月12日	⑧ 1月19日	⑨ 1月26日	⑩ 2月2日	⑪ 2月9日	⑫ 2月16日

## 3. 場所

- 群馬県立女子大学 (〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1)

バスで来る場合：JR「新町駅」から約10分、JR「高崎駅」から約35分、JR「伊勢崎駅」から約25分

※ 詳しくは、ホームページ(<http://www.gpwu.ac.jp/guide/map.html>)を見て下さい。



## 4. 必要なお金

- 12回ぜんぶで500円です。

## 5. 申し込み

- E-mail か FAXで 11月12日までに申し込んでください

①E-mailの場合：gunma.japanese@gmail.com に、件名(subject)：「日本語でできた！」と書いて送ってください。そのあと、私たちが「E-mail申し込みシート」を送ります。

②FAXの場合：「FAX申し込みシート」に名前や住所などを書いて、027-223-1692 に送ってください。

※ わからないことがあったら、027-226-3396 に電話して「森さんをお願いします」と言ってください。

<問い合わせ先> 群馬県生活文化国際課 多文化共生推進係 森 TEL 027-226-3396

■主催：群馬県日本語教育支援政策研究会

■共催：群馬県、(財)群馬県観光国際協会

⑥受講者の総数 25人

第Ⅰ期：15名

(出身・国籍別内訳：中国5人、ペルー3人、アメリカ2人、イギリス2人、オーストラリア1人、フィリピン1人、韓国1人)

第Ⅱ期：10名

(出身・国籍別内訳：ブラジル3人、中国3人、ペルー1人、フィリピン1人、アメリカ1人、オーストラリア1名)

⑦開催時間数(回数) 48時間(24時間×2コース) (全 24回(12回×2コース))

⑧日本語教室の具体的内容

【第Ⅰ期】

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
1	7月7日 18:30~20:30	2時間	13人	中国・中国語(4人) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ語(1人) 韓国・韓国語(1人) アメリカ・英語(2人) イギリス・英語(2人)	教授者2人 補助者1人	インタビューとレベルチェック
2	7月14日 18:30~20:30	2時間	14人	中国・中国語(4人) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ語(1人) 韓国・韓国語(1人) アメリカ・英語(2人) イギリス・英語(2人) オーストラリア・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	①友達ができた!
3	7月21日 18:30~20:30	2時間	14人	中国・中国語(5人) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ	教授者2人 補助者1人	②楽しい夏休みが過ごせた!



				語(1人) 韓国・韓国語(1人) アメリカ・英語(1人) イギリス・英語(2人) オーストラリア・英語(1人)		
4	7月28日 18:30~20:30	2時間	14人	中国・中国語(5人) ペルー・スペイン語(3人) フィリピン・タガログ語(1人) 韓国・韓国語(1人) アメリカ・英語(2人) イギリス・英語(1人) オーストラリア・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	③どんな財布か説明できた!
5	8月4日 18:30~20:30	2時間	10人	中国・中国語(4人) ペルー・スペイン語(2人) フィリピン・タガログ語(1人) 韓国・韓国語(1人) アメリカ・英語(1人) イギリス・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	④どっちがいかが説明できた!
6	8月11日 18:30~20:30	2時間	8人	中国・中国語(4人) ペルー・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) 韓国・韓国語(1人) イギリス・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	⑤わかりやすく説明できた!
7	8月18日 18:30~20:30	2時間	9人	中国・中国語(3人) ペルー・スペイン語(2人) フィリピン・タガログ語(1人)	教授者2人 補助者1人	⑥どんなストーリーか説明できた!

				韓国・韓国語(1人) アメリカ・英語(1人) イギリス・英語(1人)		
8	8月25日 18:30~20:30	2時間	9人	中国・中国語(3人) ペルー・スペイン語 (3人) フィリピン・タガログ 語(1人) アメリカ・英語(1人) イギリス・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	⑦「困っている こと」が相談で きた!
9	9月1日 18:30~20:30	2時間	10人	中国・中国語(3人) ペルー・スペイン語 (3人) フィリピン・タガログ 語(1人) 韓国・韓国語(1人) アメリカ・英語(1人) イギリス・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	⑧やめてほし いと思ってい ることが言え た!
10	9月8日 18:30~20:30	2時間	9人	中国・中国語(2人) ペルー・スペイン語 (3人) フィリピン・タガログ 語(1人) 韓国・韓国語(1人) アメリカ・英語(2人) イギリス・英語(1人) オーストラリア・英語 (1人)	教授者2人 補助者1人	⑨パーティー の日程調整が できた!
11	9月15日 18:30~20:30	2時間	10人	中国・中国語(2人) ペルー・スペイン語 (3人) フィリピン・タガログ 語(1人) 韓国・韓国語(1人) イギリス・英語(2人) オーストラリア・英語	教授者2人 補助者1人	⑩診察が受け られた!

				(1人)		
12	9月22日 18:30~20:30	2時間	9人	中国・中国語(3人) ペルー・スペイン語 (3人) 韓国・韓国語(1人) イギリス・英語(1人) オーストラリア・英語 (1人)	教授者2人 補助者1人	インタビュー とレベルチェ ック  パーティー

【第Ⅱ期】

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
1	11月17日 18:30~20:30	2時間	8人	中国・中国語(3人) ペルー・スペイン語 (1人) ブラジル・ポルトガル 語(2人) 韓国・韓国語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	インタビュー とレベルチェ ック
2	11月24日 18:30~20:30	2時間	9人	中国・中国語(3人) ペルー・スペイン語 (1人) ブラジル・ポルトガル 語(3人) アメリカ・英語(1人) オーストラリア・英語 (1人)	教授者1人 補助者1人	①友達ができ た!
3	12月1日 18:30~20:30	2時間	10人	中国・中国語(3人) ペルー・スペイン語 (1人) ブラジル・ポルトガル 語(3人) フィリピン・タガログ 語(1人) アメリカ・英語(1人) オーストラリア・英語	教授者2人	②何があった か説明でき た!

				(1人)		
4	12月8日 18:30~20:30	2時間	9人	中国・中国語(3人) ブラジル・ポルトガル語(3人) フィリピン・タガログ語(1人) アメリカ・英語(1人) オーストラリア・英語(1人)	教授者1人 補助者1人	③文句が言えた!
5	12月15日 18:30~20:30	2時間	10人	中国・中国語(3人) ブラジル・ポルトガル語(3人) ペルー・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) アメリカ・英語(1人) オーストラリア・英語(1人)	教授者1人 補助者1人	④早退できた!
6	12月22日 18:30~20:30	2時間	8人	中国・中国語(3人) ブラジル・ポルトガル語(2人) ペルー・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	⑤病院で診察が受けられた!
7	1月12日 18:30~20:30	2時間	8人	中国・中国語(3人) ブラジル・ポルトガル語(2人) ペルー・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者1人 補助者1人	⑥アドバイスができた!
8	1月19日	2時間	9人	中国・中国語(3人)	教授者1人	⑦どんなスト

	18:30~20:30			ブラジル・ポルトガル語(3人) ペルー・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) アメリカ・英語(1人)	補助者1人	ーリーか説明できた!
9	1月26日 18:30~20:30	2時間	9人	中国・中国語(3人) ブラジル・ポルトガル語(3人) ペルー・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者1人 補助者1人	⑧紹介できた!
10	2月2日 18:30~20:30	2時間	7人	中国・中国語(3人) ブラジル・ポルトガル語(2人) フィリピン・タガログ語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	⑨うまく断ることができた!
11	2月9日 18:30~20:30	2時間	8人	中国・中国語(3人) ブラジル・ポルトガル語(3人) フィリピン・タガログ語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者2人	⑩誤解を解くことができた!
12	2月16日 18:30~20:30	2時間	7人	中国・中国語(2人) ブラジル・ポルトガル語(3人) フィリピン・タガログ語(1人) アメリカ・英語(1人)	教授者2人 補助者1人	インタビューとレベルチェック  パーティー

## ⑨ 特徴的な授業風景

本コースの特徴的な授業風景として、第Ⅱ期 7 回目「⑥アドバイスができた！」(1 月 12 日)を紹介する。

### 《1. 授業の概要》

日時 (授業時間)	受講者(計 8 名) 出身・母語(人数)	支援者(計 8 名) 役割(人数)	教材
1 月 12 日 18:30～20:30 (120 分)	・中国／中国語 (3 名) ・ブラジル／ポルトガル語 (2 名) ・ペルー／スペイン語 (1 名) ・フィリピン／タガログ語 (1 名) ・アメリカ／英語 (1 名)	・日本語教師(1 名) ・補助者(1 名) ・ボランティア(6 名)	自作教材(それぞれの回で扱うタスクごとに、本研究会のメンバーで新たに作成する)

### 《2. 日本語教師・補助者・ボランティアの役割》

#### 【日本語教師の役割】

授業の進行にあたる。必要に応じて、グループワークに加わって受講者の会話の相手を務めたり、日本語表現(語彙的、文法的、談話的なものなど)の説明を行ったりする。

#### 【補助者の役割】

教室活動における様々な発話の中で、説明が必要だと思われる表現をホワイトボードに書く。また、必要に応じて、教師との導入的会話の相手や、必要に応じて受講者の会話の相手も務める。

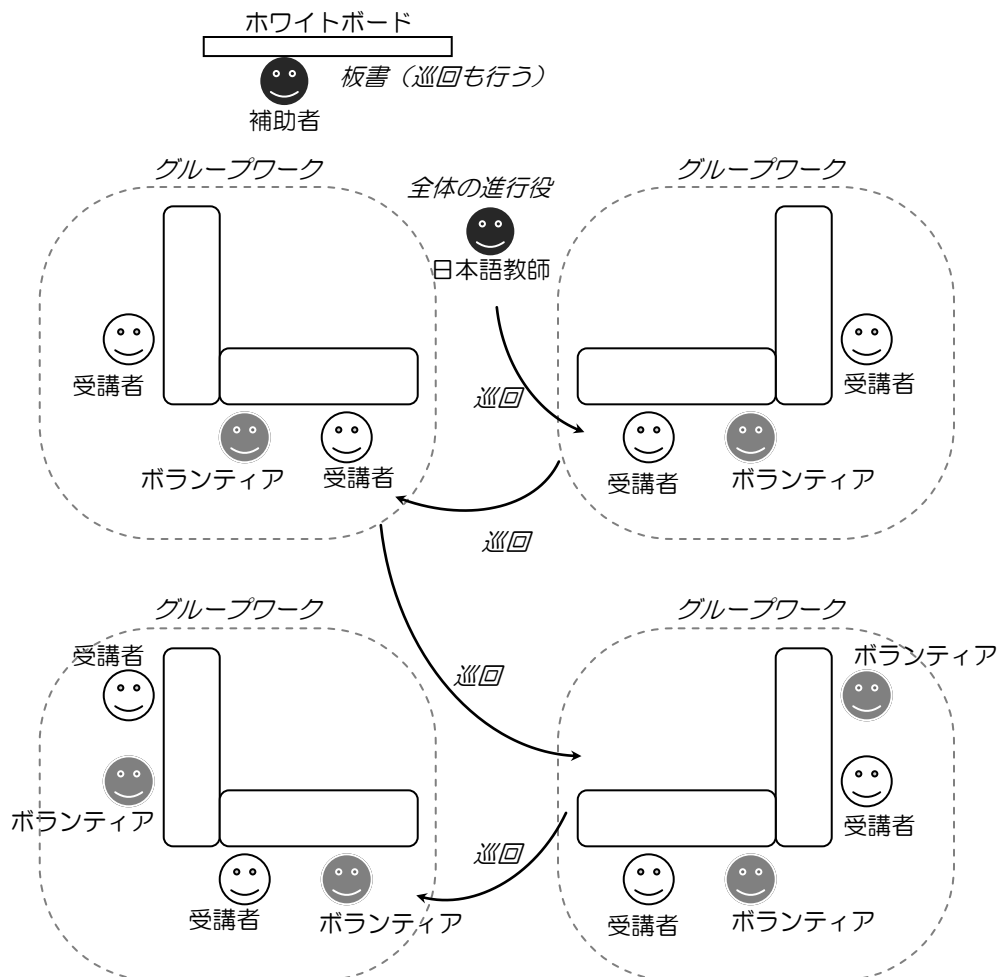
#### 【ボランティアの役割】

主にグループワークでの受講者の会話の相手を務める。グループを離れて、クラス全体への問いかけ等にも答える。また、必要に応じて、グループ内で、受講者のわからない日本語表現の簡単な説明も行う。



### 《3. 教室内の配置や、日本語教師、補助者の動線》

受講者：8名，日本語教師：1名，補助者：1名，ボランティア：6名



### 《4. 授業の進め方》

本コースの授業は、基本的に、「ウォーミングアップ」→「タスク1」→「タスク2」→「振り返り」の順に進められる。以下に、その具体的な内容を記す。

#### 【ウォーミングアップ】 …15分程度

当日行う2つの「タスク」に関わる“困ったこと”を日常的な会話の中で、参加者に投げかける。ここでの参加者とは、外国人受講者だけでなく、ボランティア、補助者も含めたすべての参加者を指す。その問いかけに対して、参加者の誰か(理想的には、受講者であるが、難しければボランティア、それでも出てこなければ補助者の順)が応える。さらに、その発話に他の誰かが加わるという

ように、教室全体で様々な話題を共有する。

### 【タスク1】 …40分程度

以下の①～⑥のような手順を進めていく。

- ①コミュニケーションの動機となる生活上の“困ったこと”の投げかけ(スキーマの活性化)
- ②タスクの提示・明確化(「～がしたい！でも、できない…」というように明示的に示す)
- ③そのタスクを解決するロールプレー(それぞれの島ごとにボランティアを相手に行う)
- ④クラス全体での発表(数名にみんなの前でロールプレーを行ってもらう)
- ⑤タスクの解決(「～ができた！」)

1回の授業で扱うタスクは2つ程度なので、そのタスクに合わせて、この①～⑤は2ターンほど行われる。

また、様々な会話の中で、受講者にとって、難解だと思われる表現は、補助者がホワイトボードに書き出すが、会話が途切れないように一連の発話の後に日本語教師が説明を加える。取り上げる表現には、あらかじめ用意していたものと会話の中で偶然出てきたものの両方がある。

### ※間に10分程度の休憩

### 【タスク2】 …40分程度

別のタスクで、上記①～⑤を行う。

### 【振り返り】 …15分程度

その日のタスクを振り返る。必要に応じて、そのタスクを行うのに必要な表現を取り上げ、語彙的、文法的、談話的な点に関する説明を行う。

また、その日の活動全体に関わる質問等を受けたり、その他の日常的な悩みや困ったことについて話を聞く。

### 《5. 当日の授業の特徴》

この日のメインのタスクは、「アドバイスができた！」であるので、受講者である外国人自身が、ボランティアや他の受講者の悩みを聞き、アドバイスをすることになる。

上でも述べたように、本コース「日本語でできた！」においてまず重要なのは、参加者に「〇〇したい」という気持ちを自然と抱かせる状況(雰囲気)作りである。この点を重視するのは、用意された会話を練習して発話させるような方法では自然な会話にはならず、真の運用力を養えないと考えるからである。従って、「日本語でできた！」では、用意された既存の会話例を読むのではなく、動機のある実際の会話の中で、参加者が自然とアドバイスしてしまうような仕組みを考え、それらをウォーミングアップでの全体的な問いかけや、ロールプレーなどで実践した。

具体的には、以下の①～⑤のような活動が行われた。



## 【タスク2:「アドバイスができた！」】

①コミュニケーションの動機となる生活上の“困ったこと”の投げかけ(スキーマの活性化)

→日本人ボランティアスタッフが最近悩んでいることを全体に投げかけた。

②タスクの提示・明確化(「～がしたい！ でも、できない…」というように明示的に示す)

→その話を聞いて、自分ならどうアドバイスするかを考えてもらった。

そして、何名かの外国人受講者にどうアドバイスするか聞いた。比較的うまく言える人もいれば、あまりうまく言えない人もいた。

③そのタスクを解決するロールプレー(それぞれの島ごとにボランティアを相手に行う)

→グループワークで、それぞれの参加者の悩みを聞き、受講者がアドバイスを行う練習を行った。また、グループワーク中に生じた受講者の日本語表現に関する疑問には、ボランティアが簡単な説明を行った。各グループを巡回している日本語教師は、適宜アドバイスを行った。そして、それらの中でクラス全体で扱ったほうが良いものをいくつか取り上げ、説明を行った。

④クラス全体での発表(数名にみんなの前でロールプレーを行ってもらう)

→グループワークの練習を経て数名がクラスで発表した。また、受講者が新たな「悩み」を話すと、それに対して、受講者とボランティアから多くのアドバイスが自然に出てきた。

⑤タスクの解決(「～ができた！」)

当日参加したほとんどの受講者が「アドバイスができた！」というタスクが行えるようになった。

「タスク2」は概ね以上のような流れであった。ここで、本コースの特徴が現れたのは、④の活動である。ある外国人受講者が「アルバイトをしたいのだけど、全然仕事が見つからない。」という相談をした。本当に困っている人を目の前に、「電話して、“いつ面接してもらえますか？”って聞いた方がいいよ」や「日本語できます”ってちゃんと言わなきゃ駄目だよ」や「いろいろなお店の掲示板を見たら？」などといった生きたアドバイスが他の外国人参加者や日本人から次々にあがったのである。この状況では、進行役の日本語教師の誘導は必要なく、日本語教室参加者同士だけで「アドバイスをする／受ける」の会話が繰り広げられていた。

これは作られたものではなく、まさに日本語で話す動機のある自然な会話そのものであるといえる。このような会話を通して外国人参加者は、上手くできなかった表現やことば、談話の流れをその都度確認し、学習するのである。これが「日本語でできた！」の大きな特徴であり、本教室の目標である“「生活者としての外国人」が生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成”に適した方法といえよう。

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿:

該当なし

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

【第Ⅰ期支援者】

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
木暮律子	高崎経済大学 専任教員	日本語教育研究者	8回	オブザーバー
小澤秀紀	高崎市国際交流協会 ボランティア	日本語ボランティア	10回	会話パートナー
佐藤瑛奈実	群馬県立女子大学 大学院生	日本語教育専攻	6回	会話パートナー
塚田翔子	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	4回	会話パートナー
栗原知里	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	4回	会話パートナー
中村ひろ	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	3回	会話パートナー
臼田敦美	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	1回	会話パートナー
太田早紀	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	1回	会話パートナー

【第二期支援者】

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
木暮律子	高崎経済大学 専任教員	日本語教育研究者	2回	オブザーバー
池田彩香	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	12回	会話パートナー
臼田敦美	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	12回	会話パートナー
太田早紀	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	12回	会話パートナー

栗原知里	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	12回	会話パートナー
中里智香	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	12回	会話パートナー
中村ひろ	群馬県立女子大学 学生	日本語教育専攻	12回	会話パートナー
桑原宜徳	伊勢崎日本語ボランテ ィア協会	日本語ボランティア	1回	会話パートナー
桑原典子	伊勢崎日本語ボランテ ィア協会	日本語ボランティア	1回	会話パートナー
亀井宣子	伊勢崎日本語ボランテ ィア協会	日本語ボランティア	1回	会話パートナー

#### 4 事業に対する評価について

##### ① 当初の学習目標の達成状況

この事業では、生活者としての外国人が生活上の課題を日本語コミュニケーションで解決することを目標とした。

例えば、「会社を早退する」「診察を受ける」「理由を説明する」「うまく断る」などの生活上の行為を解決するための日本語コミュニケーション能力を、生活上の「タスク」と考え、そのようなタスクを積み上げることでより多くの複雑なタスクが解決できることを目指した。

この目標を具体化するために、以下のような学習計画に従い授業を行った。

##### 【Ⅰ期(7月～9月)10回の内容】

①友達ができた！	⑥どんなストーリーか説明できた！
②楽しい夏休みが過ごせた！	⑦「困っていること」が相談できた！
③どんな財布か説明できた！	⑧やめてほしいと思っていることが言えた！
④どっちがいいか説明できた！	⑨パーティーの日程調整ができた！
⑤わかりやすく説明できた！	⑩診察が受けられた！

##### 【Ⅱ期(11月～2月)10回の内容】

①友達ができた！	⑥アドバイスができた！
②何があったか説明できた！	⑦どんなストーリーか説明できた！
③文句が言えた！	⑧紹介できた！
④早退できた！	⑨うまく断ることができた！
⑤病院で診察が受けられた！	⑩誤解を解くことができた！

少なくとも、参加者はこれらのタスクが日本語コミュニケーションによって達成できるようになった。従って、当初の学習目標は概ね達成できたと言える。

教室活動では、これらの言語教育的な内容に加え、必要に応じて日本での生活に必要な知識・情報(一般的な生活・習慣に関するもの、個別の地域に関するものなど)の提供や交換を行いそれらを共有することに努めた。これは、抽象的、ステレオタイプのな“文化”に関するものではなく、「渋滞時の抜け道」「評判の良い病院」「子供と一緒に入りやすいレストラン」などのより身近な個々の生活に関わる具体的なものである。これらについては、支援者よりも生活者としての外国人の方が詳しい場合もあり、相互の情報交換を通してコミュニケーションがなされるという“普通のやりとり”も多く見られるようになった。

## ② 学習者の習得状況

このコースで学習者に求めたものは、大きく分けて2つある。一つは、日本語コミュニケーションに必要な言語的知識と技能であり、もう一つは、「積極性」「協調性」といった心的な側面である。日本語の運用力には、この2つの面が必要であるからだ。この後者の面に関しては、文型練習やモデル会話練習では身につかないため、動機のある自主的な発話機会を増やす工夫が必要である。

生活者としての外国人の中には、長く日本で暮らしていても日本人と話をする機会がほとんどないという人もいる。それは、日本語を使わなくても生活できる環境があるということや、日本語を使うことに不安を持っていることなどが原因と考えられる。ある程度の日本語能力を持っている人でも、それを使いことによって、コミュニケーションの障害が生じたり、否定的な評価を受けたりすることを恐れ、なるべく日本語を使わないようにするという戦略をとることも多い。

従って、このコースでは、学習者の「積極性」「協調性」といった心的な側面を重視し、教室の外で日本語コミュニケーションを行うことの不安を取り除くことを重視した活動を行った。

その結果、学習者は教室内ではもちろん、教室外での日々の生活においても、日本語を使ってコミュニケーションを行うことに積極的になり、また、他の人々(外国人でも日本人でも)がコミュニケーション的な問題で困っている時に助け合おうとするといった協調性も強くなった。

## ③ 日本語教室設置運営の効果、成果

地域の日本語教室は、教室の設置・運営にあたる「事業者」、実際の日本語教育支援に携わる「支援者」、教室に通い支援を受ける「対象者」の3つの主体によって構成される。「事業者」は、自治体や国際交流協会の職員を中心とした主体であり、「支援者」は、日本語教師やボランティアを中心とした主体、「対象者」は生活者としての外国人である。このうち、「対象者」における「効果、成果」は、上記、①と②に記したので、ここでの「効果、成果」は「事業者」と「支援者」に見られたものとする。

「事業者」に対しては、「タスク積み上げ」型の手法の有効性をアピールすることができ、この手法による新たな教室の設置を検討したいという問い合わせが複数あった。また、波及効果として、日本語教師など日本語教育の専門家とボランティアが協働で教室活動を行うことで高い効果が得られること、また、通例 1 コース 10 回～12 回で行われている日本語教室のコース全体の目標や各回の目標を設定することの重要性などが認識できたという意見も頂いた。

「支援者」に対しても同様に、「タスク積み上げ」型の手法の有効性をアピールすることができた。本事業の教室活動に参加したボランティアの方々からは、「学習者の発話量が多い教室活動で、今後活動するうえで参考になった。」「担当する教室では、同じ母語話者同士で集まって母語で会話してしまいがちなのだが、この教室は同じ母語話者同士で固まることなく、みんな日本語でコミュニケーションをしていて驚いた。」等の感想をいただいた。さらに、「すでに参加しているボランティア日本語教室でこの手法を試してみたい」「このような手法を他のボランティアに紹介したい」「この手法の勉強会をボランティア同士で行いたい」といった声も聞かれた。

このように、一部の日本語教室に見られる、文型練習中心の従来型の日本語教育に偏った活動や単に言語的知識を教え込むような活動を改め、生活者としての外国人に必要な生活日本語の運用能力を高める活動を考えてもらう契機ともなった。

#### ④地域の関係者との連携による効果、成果等

ここでは、主に日本語教室の設置・運営のハード面に関わる「事業者」に見られた効果、成果を記す。

##### ・群馬県生活文化部国際課との連携

県内広域に渡り、生活者としての外国人やその支援にあたるボランティアの方々、また、日本語教育関係者に幅広い広報ができた。また、組織内外にこのような活動の有効性を周知してもらえた。

さらに、この手法による日本語教育の成果を踏まえ、今後の県の日本語教育支援の事業計画の参考にしたいという報告を受けた。

##### ・(財)群馬県観光国際協会との連携

県内広域に渡り、生活者としての外国人やその支援にあたるボランティアの方々、また、日本語教育関係者に幅広い広報ができた。また、組織内外にこのような活動の有効性を周知してもらえた。

##### ・群馬県立女子大学との連携

大学のある玉村町をはじめ近郊に住む外国人、及び、その日本語教育支援にあたるボランティアの方々に対して効果的な広報ができた。

また、支援者(ボランティア)には、教室活動を共に行うことで、本研究会が行っている日本語教育の手法を体感し、日々の活動にいかしてもらえた。

さらに、大学として、このような取り組みを支援していこうという契機にもなった。

#### ・高崎市国際交流協会との連携

高崎市をはじめ近郊に住む外国人、及び、その日本語教育支援にあたるボランティアの方々に対して効果的な広報ができた。

また、支援者(ボランティア)には、教室活動を共に行うことで、本研究会が行っている日本語教育の手法を体感し、日々の活動にいかしてもらえた。

#### ・伊勢崎日本語ボランティア協会との連携

高崎市をはじめ近郊に住む外国人、及び、その日本語教育支援にあたるボランティアの方々に対して効果的な広報ができた。

また、支援者(ボランティア)には、教室活動を共に行うことで、本研究会が行っている日本語教育の手法を体感し、日々の活動にいかしてもらえた。

### ⑤改善点、今後の課題について

#### 【日本語能力の評価に関する課題】

理想的には、参加者の日本語能力に関して、以下の 3 つの評価を行って、教育効果やコースの見直しを図ることが必要である。

- ①コースが始まる前の日本語能力を測る(診断的評価)
- ②コース中の日本語能力を測る(形成的評価)
- ③コース終了後の日本語能力を測る(総括的評価)

現状では、①に関しては、OPI 的な手法を参考にした 1 人 15 分程度の「インタビュー」を行い判断している。また、②に関しては、各回の教室活動で行っている「ロールプレー」や「タスク」の達成度で判断している。③に関しては、①で行った「インタビュー」と同種のもの、さらにそれより少し難解ないわゆる“突き上げ”を含めた「インタビュー」を行い判断している。

しかし、このような方法は、日本語教師の力量に頼るところが大きく、評価結果が個人内での多少の差や他の評価者との大きな差となって現れる可能性がある。そのため、インタビューは録音し、複数の日本語教師で協議して判断するなどの工夫はしているが、より良い評価が行えるような「評価ツール」が必要であろうと思われる。

#### 【日本語教室の場所に関する課題】

同種の活動を異なる時期(I 期:7 月~9 月, II 期 11 月~2 月)に異なる場所(I 期:高崎市, II 期:玉村町)で行った。時期と場所を変えたのは、生活者としての外国人により多くの参加機会を提供するためであった。しかし、I 期(15 名)に比べ、II 期(10 名)は参加が少なかった。その原因として考えられるのは、II 期の場所の問題である。I 期の場所は駐車場が完備されているのに加えて、高崎駅から徒歩 10 分程度のところにあり、群馬県では利便性の高いところである。これに対し、II 期の場所は、群馬県立女子大学のある玉村町で、最寄りの駅から約 4km、バスで 15 分程度であるが、そのバスは本数が少ない(2 時間に 1 本程度)。そのため、教室へは、自家

用車で来なければならず、このような交通手段の問題で、参加したいけれどもできない、という連絡も複数受けた。

この問題は、本研究会だけで解決できるものではないが、課題として挙げておきたい。

⑥その他参考資料(受講生に対してアンケート等があれば添付してください。)

受講者に対するアンケートは行っていない。